

## 知事との県民対話集会（松川町）概要

- ・開催日時 令和4年12月2日（金） 午前10時から午前11時30分まで
- ・会場 松川町中央公民館 えみりあホール
- ・参加者 県民25名、宮下松川町長、阿部知事、丹羽南信州地域振興局長
- ・テーマ ゆうき（有機）給食の取組を通じたまちづくりと人づくり

### ・主な発言（要旨）

#### 【参加者】

- ・農家だけでなく、調理場や小売店の人など、様々な関係者が有機農業、有機給食の知識を深められるよう、人材育成の支援をお願いしたい。
- ・学校給食の有機野菜は町が購入補助をしているが、市町村の規模は様々なので、県が支援をしてくれば取り組む学校が増えるのでは。
- ・調理員が農家と話をすると、大事な野菜を使っているからと意欲が湧いてくる。栄養士や調理員が学べる場を作ってほしい。

#### 【知事】

- ・小中学校は市町村が所管している。誰がどのような支援を行ったらよいか一緒に考えたい。
- ・小規模町村が多いので、人材育成は広域で考えた方がいい。県も力を入れなければいけない。
- ・県全体の有機給食の旗振りは県でやった方がいい。農業農村支援センターだけでなく教育委員会も一緒にやらないといけない。相談して考えたい。

#### 【参加者】

- ・学校栄養士は、子どもの命を預かり、健康で長生きできる人を育てるという大事な役割がある。
- ・栄養士が農家の現場を知り、農家の思いを子ども達に伝えることが必要だと思うが、異動サイクルが短く難しい。

#### 【知事】

- ・地域を元気にするような仕事は、人のつながりが重要なため、在任期間を一定程度長くするなどメリハリのある異動が必要。教育委員会には伝える。

#### 【参加者】

- ・有機野菜の一般流通にはJAS認証が必要だが、小規模流通には向かないため、地域認証などが必要。
- ・農家と調理場をつなぐ地産地消コーディネーターを県で雇ってほしい。地産地消を進める上で、教育委員会と農政をつなぐ役割を持った人がいることは大事。
- ・環境にいいものを使うというグリーン購入法の考え方を長野県の条例として制定してはどうか。

#### 【知事】

- ・松川町の有機給食の取組の方向性については大賛成。
- ・至急検討し、どこまで次期総合計画に取り込み、実行できるか考えたい。

#### 【参加者】

- ・中間加工施設で加工したものを給食で使えば、地産地消になり調理の時短にもなる。6次産業化や地域の雇用にもつながる。給食を切り口にした加工施設などへの補助制度の検討を。

#### 【知事】

- ・地産地消を考えると中間加工施設は重要な視点。産業界の皆さんとも一緒に考えたい。

**【参加者】**

- ・農家に有機への転換をお願いしてもすぐには難しい。収入が減った際の差額の補償はできないか。
- ・今後は環境にやさしい循環型の農業を考えていかないといけない。農薬の使用量を減らしていくことについてどう考えるか。

**【知事】**

- ・有機に切り替えたことによる収入減が収入保険制度の対象になるかは確認する。
- ・農薬の使用は国の規制。国が認めているものを県がダメとは言えない部分がある。問題があれば皆さんと一緒に国へ言っていく。

**【参加者】**

- ・オーガニック給食を進めるために、我々にしてほしいことはあるか。

**【知事】**

- ・県でできることは制度や仕組みをつくること。実際に地域で動く人がいないとできない。
- ・有機給食もまちづくりも意欲がある人がつながって、県がそれを発展させるためにどうするかを考えるのが望ましい形だと思う。

**【参加者】**

- ・有機給食と地域づくり、人づくりという観点で見たとき、学校では有機給食が進められているが、学校の枠組みだけでなくもう少し広げていきたい。
- ・収穫体験を通じて生産者の思いや課題を感じることができる。地域の課題を子ども達と一緒に考える場を作っていくといけない。その積み重ねが、地域づくり、人づくりにつながると思う。

**【知事】**

- ・子ども達と一緒に考えていくことは大事。子ども達をどんどん応援してもらえればありがたい。

**【参加者】**

- ・子ども達に収穫体験に来てもらった。教室では学べない体験ができたのではないかなと思う。
- ・調理員が畑をみて、農家が大事に作っていることを知り、新しいメニューにつながった。

**【知事】**

- ・人とつながることによって問題意識や学びが生まれる。農家の思いを共有し、リスペクトしながらつながることが重要。